



# 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2026年  
No.5  
事例1

調剤

## 説明不足



### 事例

#### 【事例の詳細】

医療機関Aから患者に、リファンピシカプセル150mg「サンド」が処方された。患者が初めて服用する薬剤であったため、薬剤師は薬剤の効果、用法・用量などについて説明して薬剤を交付した。その後、薬剤を服用開始後に尿が赤くなったことに不安を感じた患者が当薬局を訪れ、医療機関Bを受診して検査を受けたが異常はなかったことを薬剤師に伝えた。薬剤師は薬剤を交付する際に副作用に関する説明が不足していたことに気付いた。

#### 【背景・要因】

薬剤師は、リファンピシカプセル150mgを長らく調剤しておらず、副作用として尿や便、汗などが橙赤色に着色する可能性を失念していたため、患者に説明していなかった。薬剤情報提供書には尿や便などが着色する可能性があることが記載されていたが、患者は見えていなかった。

#### 【薬局から報告された改善策】

尿や便の色調変化、ゴーストピルなど、患者が服用するうえで不安になる可能性のある薬剤の特徴は必ず患者に伝える。初めて調剤する薬剤や久しぶりに扱う薬剤を患者に交付する際は、添付文書や製薬企業が作成した患者向け資材を確認する。



### その他の情報

#### リファンピシカプセル150mg「サンド」の添付文書（2025年3月改訂）（第3版）（一部抜粋）

##### 11.副作用

##### 11.2 その他の副作用

	頻度不明
その他	全身倦怠感、筋脱力、手指のこわばり、浮腫、運動失調、尿・便等の着色 <sup>注)</sup>

注) 尿、便、唾液、痰、汗、涙液がリファンピシ及びその代謝物により橙赤色等に着色する。なお、血清も同様の着色を示す。また、ソフトコンタクトレンズが変色することもある。



### 事例のポイント

- リファンピシ製剤の服用により、尿、唾液、汗、涙などが橙赤色に着色することがある。これは、橙赤色～赤褐色のリファンピシおよびその代謝物が身体の分泌物などとともに排泄されるために起こる現象である。
- 患者が薬剤の服用により起こり得る副作用を把握していない場合、服薬コンプライアンス・アドヒアランスの低下、不要な医療機関の受診などが生じる可能性があることを薬剤師は認識しておく必要がある。
- 患者に薬剤の説明を行う際、服用後に起こり得る副作用をすべて伝えることは現実的ではないため、薬剤師はあらかじめ薬剤ごとに患者に伝えておくべき情報を適切に選択したうえで服薬指導を行う必要がある。薬剤情報提供書のほかに製薬企業が作成した患者向け資材なども活用し、服用後に体調変化や気になることがある場合は気兼ねなく薬剤師へ相談するよう患者に伝えることが重要である。



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル  
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）  
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqhcc.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。



# 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2026年  
No.5  
事例2

調剤

## 名称類似薬の取り違い



### 事例

#### 【事例の詳細】

患者に、カムシア配合錠LD「あすか」1回1錠1日1回朝食後28日分が処方された。薬剤師Aは誤って名称が類似しているカデチア配合錠LD「あすか」を取り揃えた。鑑査を担当した薬剤師Bが処方と異なる薬剤が取り揃えられていることに気づき、正しい薬剤を調製し直した。

#### 【背景・要因】

両薬剤は、薬剤棚の配置が近接していた。薬剤名が「カ」から始まり「配合錠LD」や「あすか」などの共通部分があった。複数の患者が来局しており、調製した薬剤師Aは焦って業務を行っていたため、薬剤名を全て確認せず一部分だけを見て判断した。

#### 【薬局から報告された改善策】

薬剤棚の配置を見直し、カムシア配合錠LDとカデチア配合錠LDを離れた場所に配置した。薬剤の調製時には薬剤名を声出しして確認する運用にする。調剤監査支援システムの設定を変更し、薬局に名称類似薬がある薬剤を調製する際には注意を促すメッセージが画面に表示されるようにした。



### その他の情報

販売名	カムシア配合錠LD「あすか」	カデチア配合錠LD「あすか」
有効成分名	カンデサルタン シレキセチル・アムロジピンベシル酸塩	カンデサルタン シレキセチル・ヒドロクロロチアジド
効能又は効果	高血圧症	
用法及び用量	成人には1日1回1錠（カンデサルタン シレキセチル/アムロジピンとして8mg/2.5mg）を経口投与する。	成人には1日1回1錠（カンデサルタン シレキセチル/ヒドロクロロチアジドとして4mg/6.25mg）を経口投与する。
PTP画像		

あすか製薬株式会社 医療用医薬品情報サイトより引用（参照2026年3月10日）



### 事例のポイント

- カムシア配合錠LD/HDとカデチア配合錠LD/HDは、名称が類似しているだけでなく、両剤とも高血圧症の治療に用いる配合剤であり、用法も同じであるため、思い込みによる取り違いが起きないように注意を要する組み合わせである。
- 本事業には、カムシア配合錠LD/HDとカデチア配合錠LD/HDの調剤時の薬剤取り違いの事例が、2022年～2025年に45件報告されている。
- 名称や外観が類似する薬剤を採用している場合には、取り違い防止を考慮した配置にする、薬剤棚に注意喚起の札を取り付ける、調剤監査支援システムを活用するなど、自薬局に適した薬剤の取り違い防止対策を組み合わせる行うことが重要である。



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル  
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）  
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.c.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。